

社会・環境報告書2016

Social & Environmental Report

2015年4月～2016年3月



ノリタケの森（赤レンガ前）

Noritake

時代を超えて受け継がれる 社会に貢献するという精神

「我が社の精神」、これは1909（明治42）年、ノリタケの前身、日本陶器合名会社の創業者である森村市左衛門が企業のあるべき姿を社員に示したものです。

ここでは、「共生、共栄」「社会貢献」「信用第一」「清廉、協力」などの大切さがうたわれています。

この精神は、時代が変わった今でも、現在のノリタケの経営の精神として連綿と受け継がれています。

1957（昭和32）年には「我が社の精神」に基づいて「社是」を定め、

2002（平成14）年には「企業倫理綱領」にまとめ直し、高い企業倫理を体現するための指針をつくりました。

そして社会から未来永劫必要とされる存在であり続けるよう、

この先もノリタケの根本精神として引き継いでまいります。

「我が社の精神」

- 一、海外貿易ハ四海兄弟人權拡張共同
幸福ヲ得テ永ク世界ノ平和ヲ保チ
国家富強ノ元ヲ開キ将来国家ニ
志ス者ノ執ルベキ事業ト決心シ創立
シタル社中也
- 一、私利ヲ不樂一身ヲ犠牲トシ後世国民
ノ發達スルヲ樂トスルヲ目的トス
- 一、至誠ヲ心トシ信実ヲ旨トシ約束ヲ
違ヘサル事
- 一、ウソヲツカヅ慢心 イカリ 驕リ
怠り 私欲ヲ慎ム事
- 一、身ヲケガスナカレ朋友ハ肉身ヨリ
大切ナリ 和合共力スル時ハ其功德
金銭杯ノ及フ所ニアラズ終生ノ
神靈ナリ
- 一、天ノ道ヲ信スヘシ天ハ人ノ為ニ万物
ヲ經營シ寸時モ休ム事ナシ
- 右ノ條々ヲ鉄石心ヲ以勇氣昇天ノ如ク
確守スベシ修養シテ怠ラサレハ心神ノ
至誠天ニ通スベシ

「社是」

良品

お客様に心から喜んでもらえる
製品を創り出すということです。

輸出

お客様を広く海外に求め、世界のお客様に
喜んでもらえる事業を目指すということです。

共栄

会社や事業に関わる全ての人々が繁栄や幸福を
分かち合おうという理念です。

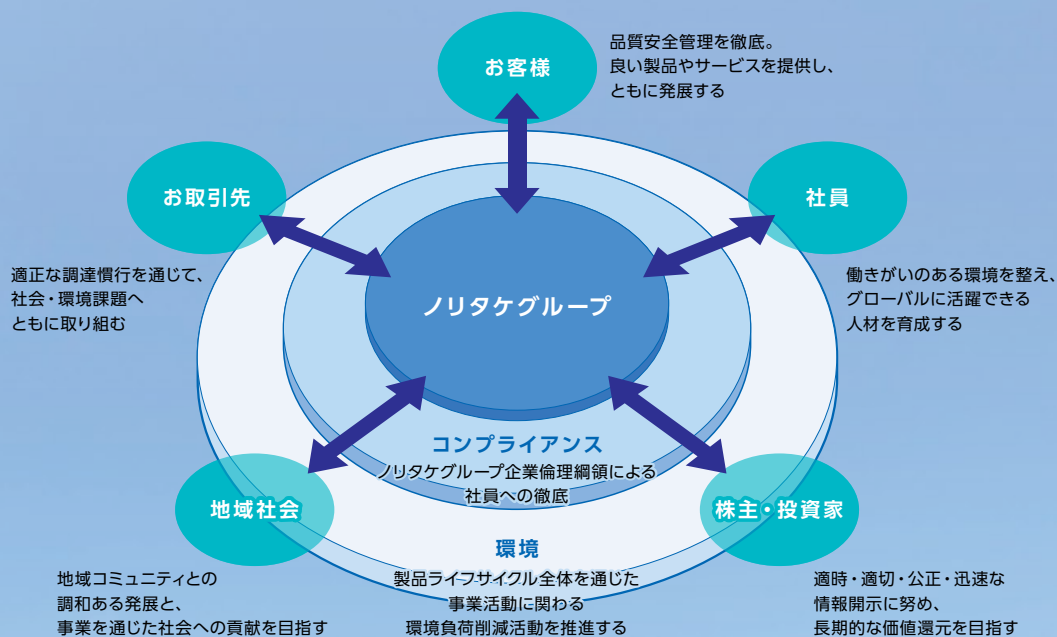
「企業倫理綱領」

〔倫理規範〕

- ① 社是「良品・輸出・共栄」の実践
- ② 法令・社会規範の遵守
- ③ 社員の人権尊重
- ④ 地球環境の保全と、
ゆたかで住みやすい地域社会への貢献
- ⑤ 株主・顧客・地域社会などへの情報開示

「ステークホルダー」

ノリタケグループは、ステークホルダーの皆様の声を真摯にお聞きし、適切に、迅速に対応していくことが
私たちの責任と使命と考え、社会から必要とされる会社であり続けることを日々目指しています。



グローバルな視野に立ち、良い製品、 良いサービスを提供することで、社会に貢献します。



代表取締役社長

小 倉 忠

ノリタケは1904年に米国向けの洋食器を製造する会社として創立され、以後110余年にわたって世界中の食卓に食器をお届けしてきました。また、陶磁器の製造で培った技術を応用し、工業用の砥石や電子部品、セラミックスの原材料、加熱装置やミキサー等のエンジニアリングなど、様々な領域に事業を広げてきました。近年は、燃料電池など新エネルギー分野に向けた製品・技術の開発や食器以外の事業の海外展開にも力を入れており、将来の成長に向けた取り組みを進めています。

中期経営計画の推進

2013年度から2015年度に取り組んだ第9次中期経営計画では、安定的に成長できる事業体制と経営体制の構築を目指して、「価格競争力のある新技術・新商品の開発による売上拡大」「海外生産拠点の整備による海外市場開拓と採算性の向上」「効果的・効率的な経営体制の整備」という3つの基本戦略を掲げて事業を推進しました。その結果、数値的な目標は概ね達成できましたが、新商品開発や海外生産拠点整備などに課題も残しました。

2016年度からスタートした第10次中期経営計画は、中国など新興国の成長鈍化が顕著になり、国内・海外とも経済に減速傾向が見られることから、引き続き厳しい経営環境が続くものと予想して策定しました。このため、本計画では、急速に変化し、ますます競争が激化するグローバル市場において、安定した収益と成長が期待できる事業体制、経営体制の構築を目指すことを課題として、前計画の取り組みを継続して推進することとしました。新たな基本戦略として「製造・販売・技術が一体となった営業活動の推進により、シェアの拡大と新しい市場の開拓を進めること」を加え、前計画から継続する「新商品・新技術の開発による市場競争力の向上と売り上げの拡大」「海外生産拠点の整備や海外市場開拓の推進による事業の拡大」「経営インフラの整備による経営体制強化」といった戦略を具体的に実現することを目指して、全力で取り組んでいきます。

地域や規模に応じ、 地に足のついた活動を進める

新しい市場の開拓や海外生産拠点の整備を進めていく上で、その地域の労働事情や自然環境等への配慮が必要であるのは言うまでもありません。ノリタケグループでは、法令・制度を遵守した上で、事業や工場の規模に応じて、その国や地域の事情に沿った形で最適な進め方をするよう努めています。当社グループの事業は小規模な工場でスタートすることが多いので、まずは法令等に基づいて事業や工場の基盤を整備し、規模の拡大とともに着実なレベルアップを図るようにしています。

また、地球環境保全については、当社グループは製造工程における環境負荷削減を中心に活動していますが、今後は環境配慮製品の開発にも取り組んでいきたいと考えています。私たちが低燃費で焼成できる加熱装置や少ない電力で研削できる砥石を開発して提供していけば、装置や砥石を使用するお客様のCO₂排出削減につながります。こうした製品のニーズは今後ますます高まるものと予想され、事業としても積極的に取り組んでいかなければなりません。私たちが開発した環境配慮製品が広くお客様に採用されることで、CO₂排出量削減に貢献すること、これが地球環境保全に対しノリタケグループが担う重要な責任と役割です。

働き方を変えて、女性の活躍を推進

経済のグローバル化、国内での少子高齢化といった世の中での状況から見ても、ダイバーシティの推進は、企業にとって避けて通れない重要課題です。当社は、これまでも、社員の人権を尊重し、年齢・性別・出身・国籍などによる差別のない採用や処遇を行ってきましたが、現在は、特に“女性の活躍”に焦点をあてた取り組みを推進しています。具体的には、女性社員の能力開発や、昇進・昇格を含むキャリア形成に向けた制度の整備、社内の意識改革を

テーマとしたプロジェクトを開始しました。また、“女性の活躍”を促進するためにも、会社全体が効率的な働き方へシフトする必要があります。長時間労働を改め、決められた時間内で高い生産性を発揮するような働き方が各職場で定着すれば、家庭や子育て等との両立も当り前の選択肢になってくるはずです。こうした課題の解決に取り組みながら、全ての社員がいいきと働ける会社を実現していきたいと思っています。

社是である「良品・輸出・共栄」の理念のもとに、お客様第一に徹した良い製品と良いサービスを提供することで、お客様や取引先から信頼され、社会から必要とされる企業であり続けること。これは、創立以来今日まで引き継がれているノリタケの精神です。

これからも、ノリタケグループはすべてのステークホルダーの声を真摯に受け止めて、事業に活かすことを通じて、社会に貢献していきます。



社会・環境報告書2016

Social & Environmental Report

2015年4月～2016年3月

この報告書は、お客さまをはじめとして関係するすべての皆さまに、
ノリタケグループの社会活動と環境保護活動を知っていただくことを目的に作成いたしました。

CONTENTS

企業理念	1
トップコミットメント	3
ノリタケグループの概要	6
特集	9

セラミック関連技術で低炭素社会の実現に貢献

ノリタケは、食器製造で培ったセラミック関連技術を応用し、さまざまな産業分野における省電力、省資源化を進め、低炭素社会の実現に向けた製品開発を行っています。



社会活動報告	11
--------	----

ノリタケグループは、創業者である森村市左衛門が唱えた「我が社の精神」を引き継ぎ、良き企業市民であるよう努めてまいります。



● コーポレート・ガバナンス	11
● メーカーとして	13
● 社員とともに	15
人材の活用と育成	15
より良い職場を目指して	16
● 社会とともに	17
地域社会との共生	17
株主・投資家の皆さまとの関係	18

環境活動報告	19
--------	----

ノリタケグループは、環境への取り組みを重要な経営課題のひとつと捉えています。環境保護と事業の利益創出を両立させた環境経営を行うことで、ステークホルダーとの共栄を図ります。



● 環境行動指針	19
● マネジメントシステム	21
● 温暖化対策	23
● 資源循環	25
● 汚染対策	26
● 環境保護への取り組み	27
● 環境負荷量	28
● 環境会計	29

社会・環境報告書2016発行によせて	30
--------------------	----

作成指針

環境省「環境報告ガイドライン」およびGRI「サステナビリティ リポーティング ガイドライン」を参考にした社会にとっての重要性和、ノリタケグループにとっての重要性を勘案し作成いたしました。

対象年度

2015年度(2015年4月より2016年3月まで)における活動を中心に、一部該当年度以外の情報も掲載しています。

対象範囲

(株)ノリタケカンパニーリミテドと国内および海外のグループ会社を対象としていますが、一部、(株)ノリタケカンパニーリミテド単体についての記載があります。

次回発行

2017年8月予定

■ 会社概要 (2016.3.31 現在)

社名	株式会社ノリタケカンパニーリミテド (NORITAKE CO., LIMITED)
創立	1904 (明治 37) 年 1 月 1 日
本社所在地	愛知県名古屋市中区則武新町三丁目1番36号
ホームページ	http://www.noritake.co.jp/
代表者	代表取締役社長 小倉 忠
資本金	156 億 32 百万円
営業品目	・工業機材事業 研削研磨工具など ・セラミック・マテリアル事業 電子部材、セラミック原料、石膏製品、蛍光表示管など ・エンジニアリング事業 焼成炉、濾過装置、混合装置、切断機など ・食器事業 陶磁器製品など
グループ会社	子会社 25 社 関連会社 7 社

■ 主なグループ会社 (2016.9.1 現在)

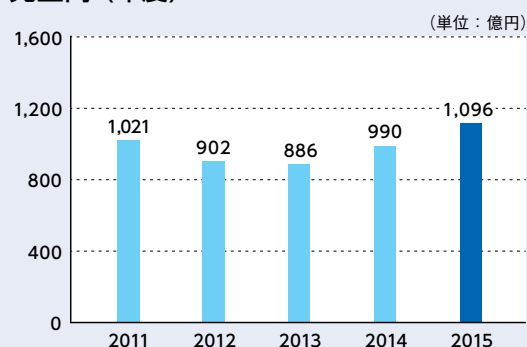
国内グループ会社

広島研磨工業株式会社
 株式会社ノリタケコーテッドアブレーション
 株式会社ゼンノリタケ
 日本レヂボン株式会社
 株式会社菱和
 東濃研磨株式会社
 株式会社ノリタケリサイクルセンター
 共立マテリアル株式会社
 株式会社キヨリックス三重
 ノリタケ伊勢電子株式会社
 株式会社ノリタケTCF
 株式会社大倉陶園
 株式会社ノリタケの森

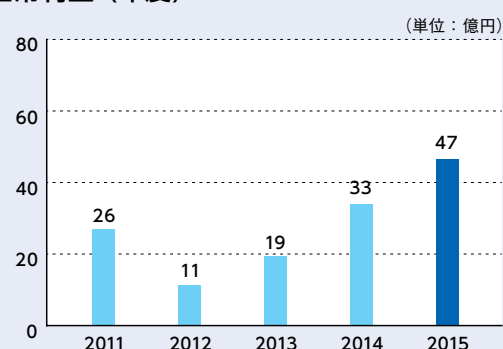
海外グループ会社

NORITAKE CO., INC.
 NORITAKE EUROPA GMBH
 NORITAKE SHANGHAI TRADING CO., LTD.
 NORITAKE SA (THAILAND) CO., LTD.
 NORITAKE ABRASIVES (SUZHOU) CO., LTD.
 SIAM COATED ABRASIVE CO., LTD.
 DIA RESIBON (THAILAND) CO., LTD.
 PT. NORITAKE INDONESIA
 NORITAKE SCG PLASTER CO., LTD.
 ITRON (U.K.) LIMITED
 NORITAKE TAIPEI CO., LTD.
 NORITAKE LANKA PORCELAIN (PRIVATE) LIMITED
 NORITAKE (AUSTRALIA) PTY. LIMITED
 (青文字で表記したグループ会社は、環境データに含まれません。)

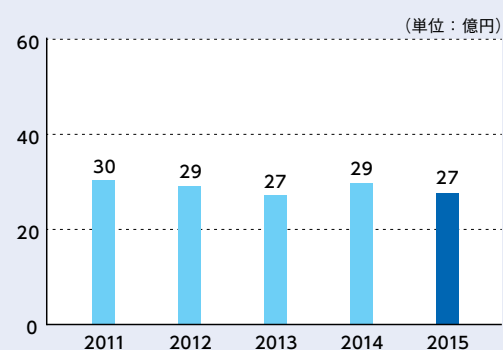
■ 売上高 (年度)



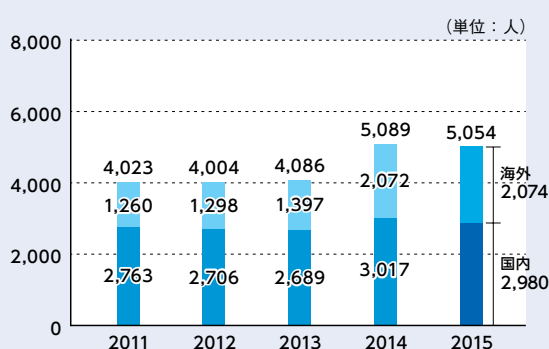
■ 経常利益 (年度)



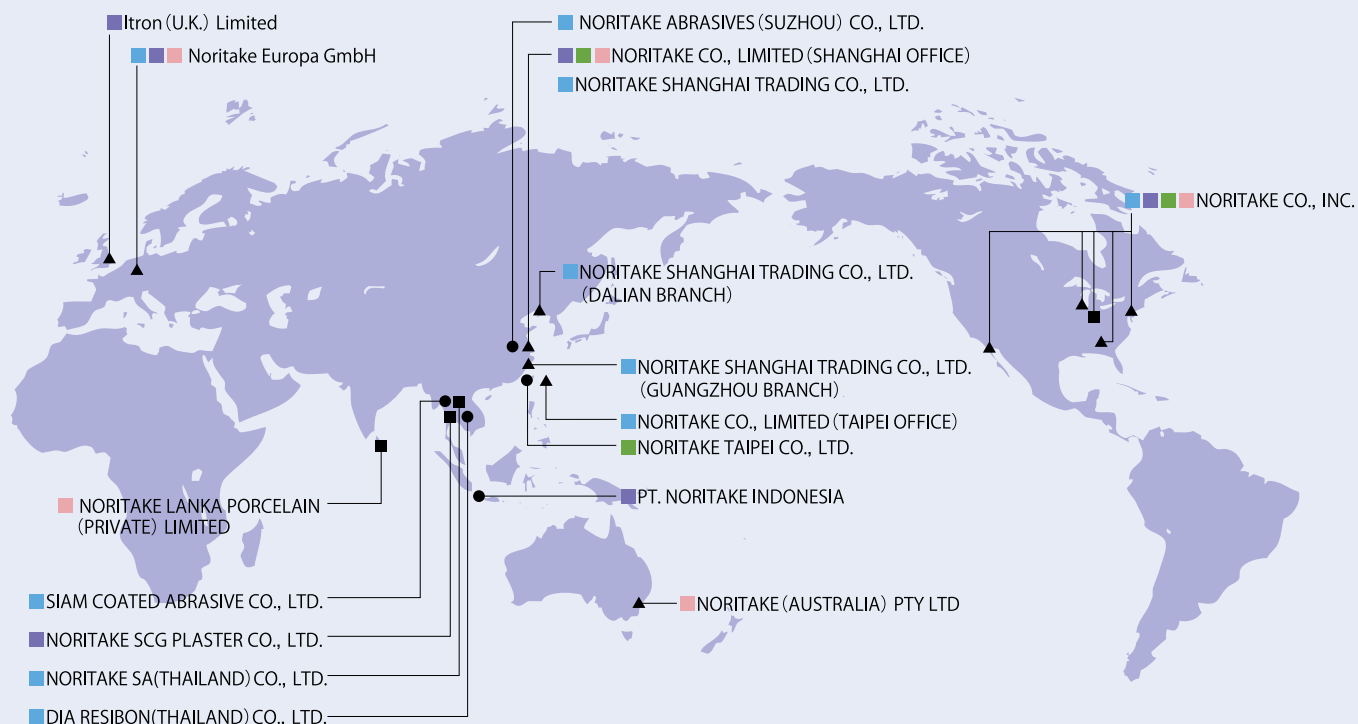
■ 研究開発費 (年度)



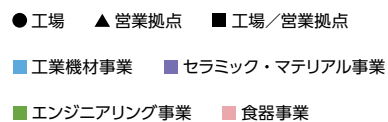
■ 従業員数 (年度) グループ全体



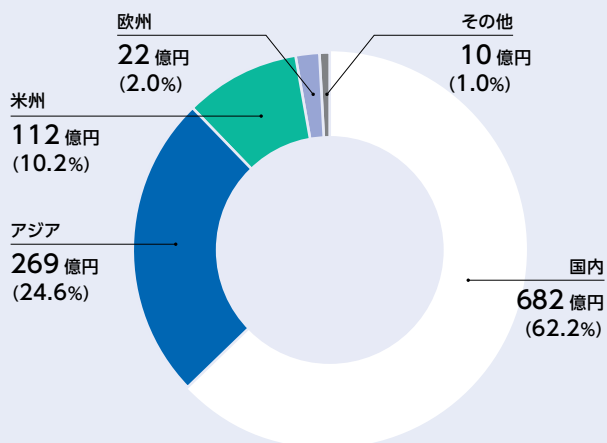
海外拠点



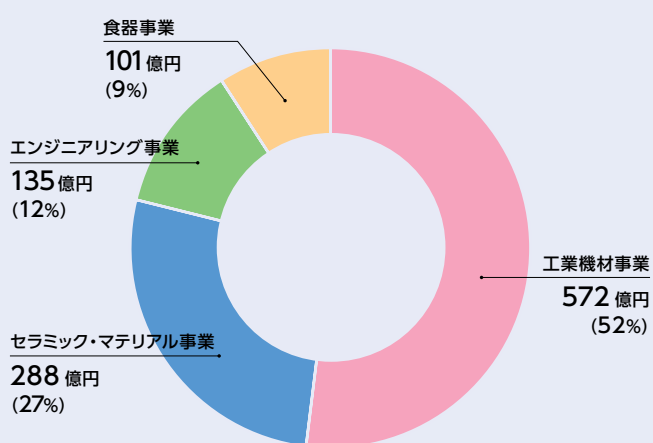
2016.9.1現在 (As of September 1, 2016)



海外売上高構成 (平成28年3月期)



事業別売上構成 (平成28年3月期)



事業概要

工業機材事業

ノリタケは、研削砥石や、ダイヤモンド・CBN 工具、研磨布紙などを製造する国内最大の研削・研磨工具の総合メーカーです。加工精度や加工効率など、その性能は世界でもトップクラスを誇り、自動車、鉄鋼、ベアリングから電子半導体分野まで、広く産業界を支えています。また、米国、タイ、中国における生産拠点を拡充し、さらなる海外市場の開拓を図っています。



セラミック・マテリアル事業

セラミックスに関する原料精製、成形、印刷、焼成などの技術を活用して、幅広い製品を開発してきました。セラミックコンデンサなどに使われる「電子ペースト」、LED 照明、自動車や医療機器用の「厚膜回路基板」、世界に先駆けて開発した表示デバイス「蛍光表示管」など、高品質で特長ある製品がさまざまな産業分野で活躍しています。近年は、自動車、電子関連分野を中心に製品開発を推進しています。



エンジニアリング事業

ノリタケの持つ「加熱」「混合」「濾過」「切断」の技術を核に、各種のエンジニアリング装置を扱っています。自動車、電子部品、エネルギー関連業界向けの加熱装置をはじめ、化学、医療、食品分野での原料の混合装置、そして濾過装置や鋼材の切断機など、多業種に向けて製品を提供しています。社会の動向を的確に捉え、自動車関連分野向け、リチウムイオン電池材料用などの製品開発を行っています。



食器事業

1914 年に日本で初めて洋食器ディナーセットを完成させて以来、デザインと品質にこだわってものづくりをしてきました。ノリタケの食器は、感性豊かなデザインと確かな品質で高く評価され、家庭での普段使いや大切なお客さまのおもてなし用として、またホテルやレストランなどの業務用として、世界中の皆さまにご愛用いただいています。新たな取り組みとして、上質な日用食器の充実を進め、日々の食空間ごと提案する活動を展開しています。



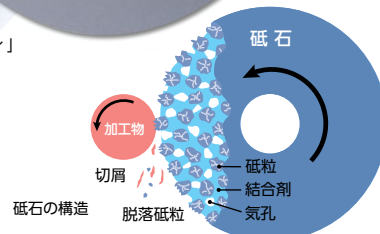
高精度加工を可能にする 研削砥石で環境負荷の低減に貢献

砥石はものを削る際の切刃となる「砥粒」、それを保持する「結合剤」、削って出た切りくずを排除したり、研削液を加工点へ供給したりするための「気孔」から成り立っています。これらの分布が偏っていると、摩擦熱や片減りが生じ、加工不良の原因となります。ノリタケは、セラミック材料の調合ノウハウを活かして均一な構造で、切味が持続する「ノンクロツティ」などの研削砥石を開発しています。

省エネルギー社会の実現を目指し、技術革新が進む自動車分野で、高精度・高品位な部品製造を可能にすることで、環境負荷の低減に貢献しています。



研削砥石
「ノンクロツティ」



セラミック関連技術で 低炭素社会の実現

ノリタケは、食器製造で培った、セラミック関連技術を応用し、さまざまな産業分野における省電力、省資源化を進め、低炭素社会の実現に向けた製品開発を行っています。

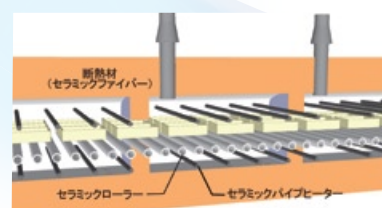
加熱工程の省エネと効率化を実現する ローラーハースキルン

ローラーハースキルンは、製品をセラミックローラーで搬送しながら焼成する連続炉です。窯に詰めたり出したりするごとに加熱したり、冷ましたりする必要がないことに加え、排熱の再利用もできるため、省エネ効果が高いのが特長です。

炉内をすべてセラミックで構成できるため化学反応にも強く、リチウムイオン電池材料などの加熱工程で高い実績を誇っています。



ローラーハースキルン



ローラーハースキルンの構造

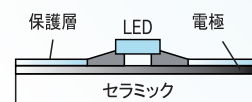
高輝度LEDの長寿命化に貢献する 厚膜回路基板

LED照明は、白熱灯や水銀灯に比べ格段に消費電力が少ないため、低炭素社会の実現に向けて、全国の市町村で街路灯や防犯灯のLED化が進められています。

ノリタケの厚膜回路基板は、放熱性がよく、熱によるLED素子の劣化を防ぐことが可能。また、セラミックの白さを活かして、光を無駄なく長期にわたって安定して反射させるので、LEDの長寿命化にも貢献しています。高い信頼性が求められる自動車や街路灯などの高輝度LEDなどに採用されています。



厚膜回路基板



LEDチップの構造

燃料電池材料の開発で 低炭素社会の実現へ

固体酸化物形燃料電池(SOFC)や固体高分子形燃料電池(PEFC)用の材料や部品、触媒等の開発により、これら燃料電池の高性能化、低コスト化、信頼性の向上を推し進めています。



燃料電池材料

に貢献

機能とデザインを考慮した商品開発で ゆとりある暮らしを

白磁“プレミアムホワイト”は透き通るように白く、薄く成形しても強度を保つため、軽くて丈夫な食器になる新素材。2011年に開発したこの素材を用いて、繊細なレリーフで上品に、スタッキング性も加味した形状で機能的に仕上げたのが人気のシリーズ「シェール ブラン」です。

美しい器を気軽に使えるようにして使い捨てなどを減らすこと、また、製造時はもちろん、軽量化などの工夫で物流面においても省エネ化を進めること。100年の経験を活かして、人にも環境にも優しいものづくりを心掛けています。



「シェール ブラン」

コンプライアンスの徹底

コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の強化を図っています。部門またはグループ会社ごとにコンプライアンス担当者を選任し、きめ細やかな活動を展開しています。専門的な知識を習得するための研修を実施しているほか、社内報では毎回、日常の業務に関わる法令などについて事例を挙げて分かりやすく解説し、全社員への周知を図っています。

リスク管理体制の整備

経営上の問題や事故、災害などで企業価値を損なうような危機に直面した時、可能な限り損失を低減し、事業を継続させることができるよう「危機管理規程」を定めています。この規程では、「安全、とりわけ人命を最優先すること」を第一とし、危機が発生した時は直ちに対策本部を設置して対応することを定めています。

また、あらゆる危機の発生を想定し、いざという時に迅速かつ適切に対応できるよう、日頃から全社員への周知を図り、「危機管理体制」の確立に努めています。

情報セキュリティの強化

個人情報を含めた情報資産の保護については、リスクを排除し、安全に事業活動を行うため、「情報セキュリティ管理規程」を定めています。この規程は、すべての役員、社員に対して情報セキュリティに関する行動規範を示すもので、これに基づいて、対策標準や実施手順書を作成し、運用しています。

また、担当役員のもとには推進部門を置き、業務プロセス改善の一環として、セキュリティ強化のための取り組みを進めています。成りすましや不正アクセスを防止するため、パスワード要件強化やID管理を実施しています。

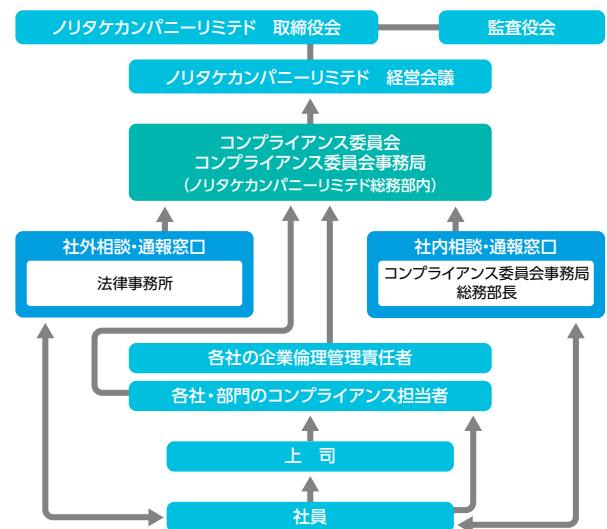
適切な情報開示

契約上秘密保持義務を負っている事項、および企業内のノウハウなどの機密事項を除き、株主などの投資家・取引先・地域社会などが必要とする情報を、関係法令などに従って適切に開示しています。また、グループ内の未公開情報を利用したインサイダー取引に関し、内部者取引規則に関する規程を設け、違反があった場合には厳しく対処します。

内部通報制度の整備

全社員が法令、行動基準、社内規程などの違反やその疑いのある行為を発見したときには、管理責任者や上司を通さず直接相談・通報できる窓口を、社内のコンプライアンス委員会事務局と社外に設けています。通報者や内容に関しては、この対応に必要な場合を除き、秘密を厳守します。また、相談や通報をしたことによって、会社から不当な扱いを受けることはありません。

■ コンプライアンス体制図



公正な取引

ノリタケグループでは、公正で自由な競争の中で事業活動が行われるべきであると考えています。そのため独占禁止法や外国為替法などの関係諸法令を遵守し、製品の価格や供給量の協定、そのほか市場における公正で自由な競争を制限するなどの行為は一切行っておりません。

また、下請法に関してのセミナーを定期的を開催し、グループ全社に周知徹底を図り、下請取引関係会社との適切な関係づくりとその維持に努めています。

知的財産の保護

特許権や商標権、意匠権など法律で認められているもののほか、企業が一般には公開していないノウハウ、技術・営業上の機密事項を含んだ知的財産の保護保全に努めています。また、他社の知的財産権を侵害しないよう、十分に注意を払っています。

メーカーとして

ノリタケグループは、取引先の皆さまと協力し、製品やサービスの品質を向上させて、お客さまの満足度や製品の価値を高めることがメーカーとしての事業を通じた社会貢献と考え、事業活動を行っています。

ノリタケの森「ウェルカムセンター」

製品の安全について

ノリタケグループでは研究・開発から設計、製造、流通および販売のすべてのプロセスにおいて、製品の安全性に十分に配慮し、お客さまに安心してお使いいただけるよう努めています。そのために、法令などの遵守はもちろん、それらが無い場合は自主基準を設け、これに従っています。このほか、わかりやすい取り扱い説明書を添付することで、誤った使用方法による事故を未然に防ぐ努力をしています。

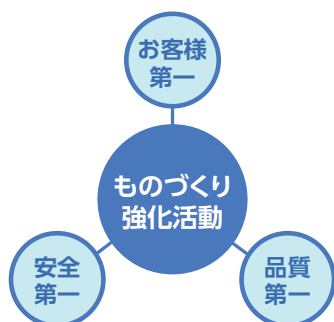
万が一、提供した製品やサービスによって事故やトラブルが生じた場合には、その情報を速やかにお客さまに伝え、迅速かつ適切な方法で被害の拡大を最小限に抑えます。

また、再発防止のため、徹底的に原因を究明する体制づくりを進めています。

ものづくり強化の活動

ノリタケは、「白く精緻な磁器を作りたい」という創業者たちの熱い想いから誕生した「ものづくり」の企業です。この精神に基づき、2011年にものづくり強化委員会を発足させ、製品やサービスの品質向上に取り組んでいます。

ものづくり強化委員会では、「お客さま第一、安全第一、品質第一」を掲げ、この3つの「第一」の達成が、事業を通して社会に貢献し続けるために重要であるとの認識のもと、活動を推進しています。



2011年に製造部門から始めた「ものづくり3・1 (M3・1) 活動」を、設計・技術部門を対象とした「品質保証整備推進活動」と営業・管理部門を対象とした「業務品質向上活動」へと拡大しました。そして2015年度には、ものづくりの基盤整備と品質保証のレベルアップのために、「M3・1活動」と「品質保証整備推進活動」を統合して、製造と技術が一体となって進める「M3・1活動」へと進化させました。現在は営業・管理部門を対象とした「業務品質向上活動」との二本柱で活動を進めています。

ものづくり強化委員会

M3・1 活動部会

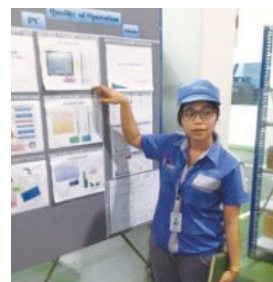
対象: 製造・技術

業務品質 向上活動部会

対象: 営業・管理

■ M3・1 活動（製造・技術）

昨年から引き続いて基盤整備活動を継続するとともに、さらなる品質向上を目指して、良品活動、品質監査体制整備を推進してきました。これらの活動のカギとなる、人材育成のためのプログラム構築にも取り組んでいます。また、NLPL(スリランカ)やNSAT(タイ)、NTCL(台湾)等の海外拠点においても、活動を展開しています。



ものづくり活動 (NSAT)

●基盤整備活動

安定した生産のために安全や2S、標準化などの基盤となる仕組みの整備を継続して実施しました。この活動のキーマンとなるスペシャルトレーナーの指導により、全ての工場がそれぞれの実情に応じた活動を展開しました。

●良品活動

発生したクレームの真の原因がどこにあったのかを、品質要件まで遡って究明して根本対策を実施、指導できるトレーナーの育成を行い、トレーナーによる技術者への研修を、設計、生産技術、製造の各部門が一体となって実施しました。その結果、不具合対策による不良発生防止と、製造と検査間の保証区分の明確化による不良の流出防止の仕組みが再構築できました。

●品質監査体制整備

お客さまが求める“良品”を速やかに、かつ確実に提供できる仕組みを整えるために、商品企画から量産化までの各ステップで行うべきことや確認すべき項目について、ノリタケグループ共通の標準を定めました。そして、その遵守状況と有効性を確認する監査体制を構築し、品質マネジメントシステムの中でPDCAを確実に回すことで、継続的な品質向上に努めています。



現地現物確認会

■業務品質向上活動(営業・管理)

日常業務、定常業務の流れを改めて整理し、社内においても、仕事のアウトプットを渡す相手を“お客さま”ととらえ、その満足度を意識することで業務を改善していくという活動です。この活動では、現状の課題、問題を抽出します。それを解決する際には、部分最適ではなく常に全体最適となるように心がけます。すべての社員がそれぞれの役割を認識し、「私が主役」との意識をもって業務に邁進できるよう、この取り組みを継続していきます。



業務品質部会

お取引先との連携

エンジニアリング事業部では、多くのお取引先の協力を得て事業を行っています。お取引先の皆さまと、経済環境や業界の情報を共有して共栄を目指しています。

また、定期的に、安全衛生セミナーなどを開催して、労働災害の防止に努めています。



安全衛生協力会全社大会

社員とともに

ノリタケグループは、社員が“熱誠を持って仕事に取り組み、仕事を通じて社会に貢献する”べく、多様な人材の活用・育成や、社員が能力を発揮しながら安心・安全に働ける職場づくりに取り組んでいます。

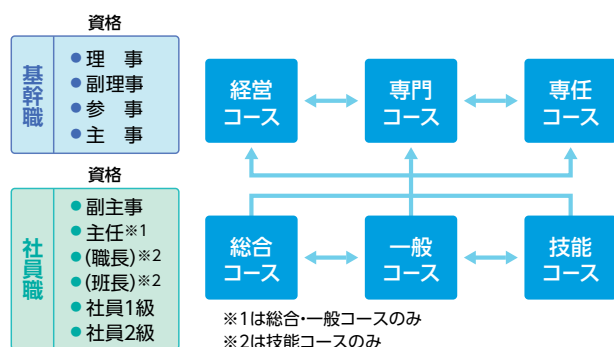
人材の活用と育成

ダイバーシティ

ノリタケグループの社員数は5,054名(2016.3.31現在)です。採用にあたっては、学業成績にとらわれることなく、考え方や人間性を尊重しています。また、入社後の処遇においても社員の人権を尊重し、年齢・性別・出身・国籍などによって差別をすることはありません。

個性を活かす人事コース

社員一人ひとりが個性を活かして働くことができるよう、複数の人事コースを用意しています。所定の審査を経て、一度選択したコースから途中で変更することもできます。また、一部の階層には、自身の仕事に対する能力と適性について自ら分析・評価し、直接人事部に相談できる自己申告制度を設けています。



人材育成について

ノリタケグループでは、各職場でのOJT(On the Job Training)を中心に人材育成を進めています。このOJTを支えるため、新入社員研修や昇格時に行う「階層別研修」や財務、法務、コーチングなど専門的な知識の取得を目的とした「目的別研修」などのOFF-JTを実施しています。

また、通信教育講座も用意し、特に会社が推奨する講座には受講料を補助する制度もあります。語学スキルアップや公的資格取得のため多くの社員が利用しています。

■ 公的資格取得者数および通信教育講座受講者数 (名)

年 度	2012	2013	2014	2015
公的資格取得者数	210	185	206	197
通信教育講座受講者数	636	726	674	732

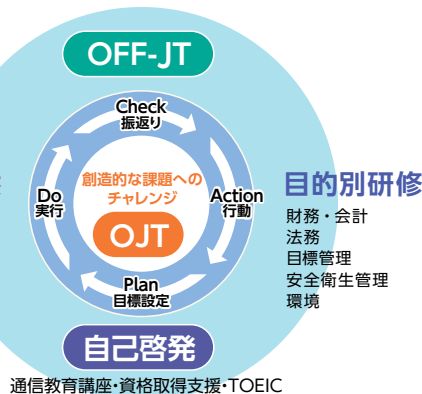
「基幹職」

課題解決力の強化
部下の育成
リーダーシップ
マネジメント
コンプライアンス

階層別研修

「社員職」

問題解決力の強化
役割認識
品質管理
論理的思考の育成
コンプライアンス



休暇・休業制度について

社員が仕事と家庭生活を両立させるさまざまな休暇、休業制度を整備しています。リフレッシュ休暇やアニバーサリーホリデーなどを設け、年次有給休暇の取得を奨励しています。また、育児や介護と仕事を両立できる環境づくりとして、勤務時間を短縮できる育児勤務の期間の延長や、有給休日を利用するなどして育児休業や介護休業制度を充実させています。ノリタケグループでは、2016年3月31日時点で20名が育児休業を利用しています。

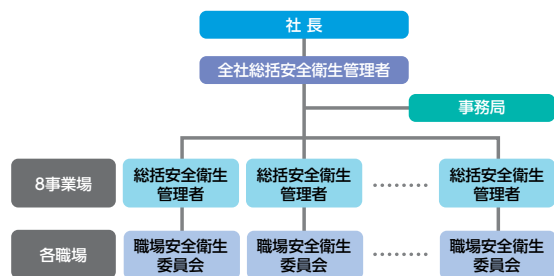
より良い職場を目指して

ノリタケグループは、安全かつ衛生的で心身ともに健全に働ける快適な職場環境が事業活動の基盤であり、企業にはこれをつくり、保つ責任があると考えています。

安全衛生管理体制

労働災害の防止と社員の健康維持のため、グループ安全衛生基本方針に基づき、年度ごとに安全衛生管理目標を立てています。毎月、安全衛生委員会を開催し、労働災害の事例や対策を共有することで類似災害の防止を図っています。さらに、全社員に安全衛生手帳を配布し、安全衛生の基本や作業別の注意事項などの周知に努めています。

■ 安全衛生管理体制図



■ ノリタケグループ安全衛生基本方針

ノリタケグループは、そこで働く全ての人の安全と健康を守ることは企業活動の最も重要な基盤であるとの認識の下、安全で快適な働き甲斐のある職場づくりに積極的に取り組みます。

- ① 「安全」と「健康」を全てに優先させる。
- ② 安全衛生に関する法令と社内ルールを遵守し、安全衛生管理水準の向上に取り組む。
- ③ 良好なコミュニケーションの維持・向上に努め、全員参加の活動をする。

労働災害防止への取り組み

2015年度は、労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の考え方に則った全社安全衛生活動を推進し、初めて内部監査を実施することで、活動の問題点や課

女性活躍推進法に基づく行動計画の推進

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍推進によって多様性を進め、優秀な人材の確保や事業の成長に資するため、「一般事業主行動計画」を策定し、計画を推進しています。

■ 一般事業主行動計画

計画期間	2016年4月1日～2019年3月31日
目標 1	将来の管理職・役職者候補となる総合コースの女性の人数を1.5倍に増やすとともに、一般コースからの管理職・役職者への登用に向け育成を行う
目標 2	育児休業・育児勤務を前提としたキャリア形成のための制度を構築する

題の解決を図り、活動の基盤整備を行いました。労働災害防止の取り組みとして、従来から取り組んでいる危険箇所マップ化運動、安全体感教育、危険予知トレーニングを継続展開しました。2016年度は、作業標準書の精度を高めるための、作業観察会を浸透させる活動を行っています。

社員の健康管理

▶ 健康診断の実施と有所見者のフォロー

全社の定期健康診断を年度前半に実施し、検診結果の早期把握をしています。また、生活習慣病などの有所見者には、各診療所の保健師が中心となって食事・運動改善などの保健指導のほか、定期的な検査を行い改善効果の確認をしています。

▶ 職場の作業環境の向上

製品の生産に使用する原材料の中には、粉じん、有機溶剤、特定化学物質など人体に影響を与える可能性のある物質もあります。これらの物質を扱う職場では法令に従い、定期的に作業環境測定を実施して、状況把握、改善を行い職場環境の向上に努めています。また、2016年度から施行される化学物質のリスクアセスメントを各事業所および工場で行い、リスクの低減活動を進めます。

メンタルヘルスケア

メンタルヘルス研修を「階層別研修」へ組み込み、セルフケアおよびラインケアについて教育することで、

- 本人の意識の向上
- 職場の部下、同僚に対する気づき
- メンタル不調への早期対応（重篤化の防止）

を段階的に理解できるようプログラム化しました。2016年度も継続して社員のメンタルヘルス意識の向上を図ります。さらに、ストレスチェックを実施して、受検者のストレス状態の気づきとケアに結び付けます。

社会とともに

ノリタケグループは、
ゆたかで住みやすい社会を実現するために、
広く皆さまとコミュニケーションを行い、
社会とともに発展することを目指しています。



社会見学

地域社会との共生

ノリタケの森

ノリタケカンパニー本社敷地の一部を「ノリタケの森」として一般に広く開放しています。この森は、産業観光の促進、環境への寄与と地域社会への感謝を形にした施設です。2013年には開園以来の入園者が500万人に達しました。都会の中での憩いの場となっているほか、ミュージアムやギャラリーなどさまざまな施設を見学することができます。また、災害発生時には帰宅困難者のための一時避難場所として、地域社会に貢献しています。

●都市の中のオアシスとして

「ノリタケの森」には約22,000㎡の緑地があり、周囲も合わせて6,000本以上の樹木が植樹されています。都市の中に自然を創出して、野鳥、昆虫など、野生の生き物が住みやすい環境を整えています。



ノリタケの森の野鳥

●安心・安全を提供

名古屋市の中心部に広い敷地を持つノリタケの森は、大規模災害の発生時には、帰宅困難者の一時避難場所となる協定を名古屋市と結び、地域の安心の一端を担っています。また、地域の警察、地域住民と共同で本社地域のパトロールを行い、防犯を呼びかける活動を行っています。



交通安全運動

●季節の催し

子供の日を前に、煙突ひろばには、色とりどりの鯉のぼりが掲げられます。また、12月にはクリスマスイルミネーションの中に、ツリーとともに巨大なサンタクロースが飾られ、クリスマスの風物詩となっています。



ゴールデンウィークイベント

●社会科見学・環境学習への協力

名古屋市立の小学3年生の社会科副教材には、食器の工場としてノリタケの森クラフトセンターが紹介されており、毎年多くの小学生を受け入れています。

また、EPOCH(環境パートナーシップCLUB)の活動の一貫として、ノリタケの森を利用した環境教育講座を行っています。



環境教育講座

●「第3回 みどりの社会貢献賞」を受賞

2015年10月の全国都市緑化祭記念式典において、ノリタケの森は「第3回 みどりの社会貢献賞」の表彰を受けました。この賞は、公益財団法人都市緑化機構が主催し、企業等により管理され、地域貢献や環境活動での功績が認められた全国の範となる緑地に与えられるものです。



みどりの社会貢献賞

●文化、芸術活動の舞台として

陶芸、絵画、彫刻などのアートを身近に楽しんでいただく場として「ノリタケの森ギャラリー」を設けています。作家の個展から市民の美術展まで、幅広い方々に作品発表の場を提供しています。

スリランカでの地域貢献活動

ノリタケは1972年、スリランカに食器の製造会社(NLPL)を設立しました。それ以来、食器の主力工場として生産を続けながら、地域との交流を続けています。

NLPLが所在するマータレ市は、ゴミ埋め立て施設が容量一杯となり、ゴミ処理問題に取り組んでいます。2015年7月、NLPLはマータレ市、JICA(国際協力機構)のボランティアと共同で、近郊の学校の生徒を集めて、ゴミ削減、資源リサイクルおよびその環境に対する効果についての啓蒙活動を行いました。



ゴミ削減、資源リサイクルについての学習会

株主・投資家の皆さまとの関係

コミュニケーション

毎年6月下旬に名古屋市の本社で、定時株主総会を開催しています。2016年6月の第135回定時株主総会には201名の株主が出席、率直なご意見、ご質問をいただきました。本決算と第2四半期決算の発表後には、証券アナリストを対象とした決算説明会を開催しています。

そのほか、株主や投資家の皆さまが事業報告書やアニュアルレポート、決算発表資料などの各種情報を容易に入手できるよう、ノリタケグループウェブサイトの充実を図っています。



剰余金の配当などの決定に関する方針

ノリタケでは、中長期的な観点から安定的な配当を維持することが配当政策の基本と考えています。配当金の額は、業績・財務状況、今後の事業展開などを総合的に斟酌して決定し、年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としています。2015年度は、この方針に基づき、1株当たり年6円(中間配当金3円、期末配当金3円)の配当をいたしました。

年間配当

年 度	2011	2012	2013	2014	2015
年間配当	8 円	8 円	6 円	6 円	6 円

株主優待制度を実施しています

日頃ご支援いただいている株主の皆さまに、配当とは別に株主優待制度を設けています。ノリタケ直営店およびノリタケオンラインショップでノリタケと大倉陶園商品を購入する際にご利用いただける「株主商品割引優待券」をお送りしています。(一部対象外品があります)



環境活動報告

環境行動指針

ノリタケの森（せせらぎ）

環境ビジョン

ノリタケグループでは、企業における環境問題への取り組みを中長期的な経営課題のひとつと考え、環境方針および環境行動計画を策定し、環境保護活動を進めてきました。

2013年度からはじまった中期3カ年環境行動計画では、従来の取り組み成果を踏まえ、地球温暖化対策、資源循環を目的に温室効果ガス排出量と廃棄物排出量の削減目標を設定しました。また、海外事業の拡大へ対応するため、海外生産拠点での環境マネジメントシステムの導入を進め、法規制への対応と環境汚染リスクの低減を目指しました。

目指す姿

ノリタケグループは、自主的な環境保護活動をグループ一体となって推進し、事業活動において発生する環境負荷や環境リスクの低減を積極的に取り組み、地球環境保護への貢献を目指します。また、環境保護と安定した事業の利益創出を両立させた環境経営を行うことで、ステークホルダーとの共栄を図ります。

■ 基本理念

世界的な視野に立ったノリタケの創業精神である“良品・輸出・共栄”の理念のもと、すべての生命にとってかけがえない地球環境を守るため、環境に配慮した“グリーン”な事業活動を推進し、人と環境にやさしい“グリーン”な製品とサービスを社会に提供します。

■ 環境方針

ノリタケグループは、環境保護に関する方針を文書に定め、これを社会に宣言して地球環境の保護活動を推進します。

- (1) 環境目的・目標を定め、環境活動の継続的な改善を進めます。
- (2) 環境管理体制を強化し、環境汚染を未然に防止します。
- (3) 環境に配慮した原材料、技術を導入して、環境にやさしい製品の開発を積極的に推進します。
- (4) 環境に関わるすべての法律、条例、その他の要求事項を遵守します。
- (5) 環境教育を実施して、全社員の環境保護意識の向上を図ります。

■ 目指す姿

自主基準を設定しグループ全体活動としての環境活動の実施

- 環境保護と利益創出を両立させた環境経営の実現と推進
- グループ全体活動の定着とレベルアップ

2015年度の取り組み

2015年度は、第9次中期3ヵ年環境行動計画の最終年度となることから目標達成に向け活動を推進しました。削減目標を掲げた温暖化対策、資源循環に対しては、ものづくり強化活動と連携しながら、日常業務の「ムリ、ムダ、ムラ」を取り除くことでエネルギー使用量や不要物発生量

の低減を進めました。また、優れた環境活動への表彰制度を創設し環境保護活動の活性化を図りました。

2016年度から始まる環境行動計画では、温暖化対策、資源循環、汚染対策などの取り組みを継続するとともに、海外工場における環境マネジメントシステムの展開と環境に配慮した製品対策に重点を置いて活動を進めます。

■ 中期3ヵ年環境行動計画 (2015年度結果及び2016～2018年度計画)

活動項目		第9次中期環境行動計画		評価
		2015年度計画	2015年度活動結果	
環境管理体制	環境マネジメントシステムの運用	環境マネジメントシステムの継続的改善	環境管理マニュアルの見直し	○
	海外工場の環境活動の推進	環境マネジメントシステムの導入(海外4工場)	環境マネジメントシステムの現地指導	×
温暖化対策	温室効果ガス排出量削減	【国内】 排出量:2010年度比7%削減(69,000t以下) 原単位:2010年度比5%削減	【国内】 排出量:2010年度比21%削減(59,921t) 原単位:2010年度比0%削減	△
資源循環	埋立廃棄物排出量削減	【国内埋立廃棄物】 排出量:2010年度比40%削減(1,630t以下) 原単位:2010年度比3%削減 リサイクル率:77%以上	【国内埋立廃棄物】 排出量:2010年度比61%削減(1,065t) 原単位:2010年度比49%削減 リサイクル率:82%	○
汚染対策	化学物質管理の強化	有害物質保管管理基準の遵守	PCB含有機器の適正保管管理 PCB含有機器の適正処理	○
製品対策	環境配慮製品による環境負荷削減	環境配慮製品の抽出	環境配慮製品の抽出	△
	グリーン調達	ガイドラインの更新	ガイドラインの更新	○
環境コミュニケーション	環境教育の実施	環境教育 ・階層別教育 ・内部監査員養成教育 ・環境マネジメントシステム担当者教育	環境教育 ・階層別教育 ・内部監査員養成教育 ・環境マネジメントシステム担当者教育	○
	ステークホルダーへの情報発信	社会・環境報告書の発行	社会・環境報告書の発行	○

活動項目		第10次中期環境行動計画		
		2016年度計画	2017年度計画	2018年度計画
環境管理体制	環境マネジメントシステムの運用	ISO14001:2015に対応した環境マネジメントシステムの運用	ISO14001:2015への移行完了	環境マネジメントシステムの運用と継続的改善
	海外工場の環境活動の推進	環境マネジメントシステムの導入 環境負荷削減目標の設定	環境マネジメントシステムの導入拡大 環境負荷削減目標の設定拡大	環境マネジメントシステムの導入拡大 全海外製造拠点の環境負荷削減目標設定
温暖化対策	温室効果ガス排出量削減	【国内】 原単位:前年比1%以上削減 (排出量:61,500t以下)	【国内】 原単位:前年比1%以上削減 (排出量:63,500t以下)	【国内】 原単位:前年比1%以上削減 (排出量:65,700t以下)
		【グローバル】 原単位:前年比0.5%以上削減 (排出量:88,000t以下)	【グローバル】 原単位:前年比0.5%以上削減 (排出量:90,200t以下)	【グローバル】 原単位:前年比0.5%以上削減 (排出量:92,900t以下)
資源循環	埋立廃棄物排出量削減	【国内埋立廃棄物】 原単位:前年度比1%以上削減 (排出量:1,205t以下) リサイクル率:80%以上	【国内埋立廃棄物】 原単位:前年度比1%以上削減 (排出量:1,240t以下) リサイクル率:80%以上	【国内埋立廃棄物】 原単位:前年度比1%以上削減 (排出量:1,280t以下) リサイクル率:80%以上
		【グローバル不要物】 原単位:前年比0.3%以上削減 (排出量:12,030t以下)	【グローバル不要物】 原単位:前年比0.3%以上削減 (排出量:12,350t以下)	【グローバル不要物】 原単位:前年比0.3%以上削減 (排出量:12,750t以下)
汚染対策	化学物質管理の強化	使用中のPCB含有機器の調査・分析 PCB含有機器の処理手続き完了	PCB機器の適正処理	PCB含有機器の保有「ゼロ」
		有害物質の適正管理 副資材の使用物質把握	副資材の有害物質使用量削減	新製品における有害物質使用量削減
製品対策	環境配慮製品による環境負荷削減	環境配慮製品の目標設定	環境配慮製品の目標及び実績公表	環境配慮製品の目標及び実績公表
	グリーン調達	サプライチェーンへの環境活動協力要請	ガイドライン第3版の発行・運用	ガイドライン第3版の発行・運用
環境コミュニケーション	環境教育の実施	従業員への環境意識の向上 ・階層別教育 ・内部監査員育成教育・資質向上教育 ・環境マネジメントシステム担当者教育	従業員への環境意識の向上 ・階層別教育 ・内部監査員育成教育・資質向上教育 ・環境マネジメントシステム担当者教育	従業員への環境意識の向上 ・階層別教育 ・内部監査員育成教育・資質向上教育 ・環境マネジメントシステム担当者教育
	ステークホルダーへの情報発信	社会・環境報告書の発行 CSR報告書へ移行準備	社会・環境報告書の発行 CSR報告書へ移行準備	CSR報告書の発行

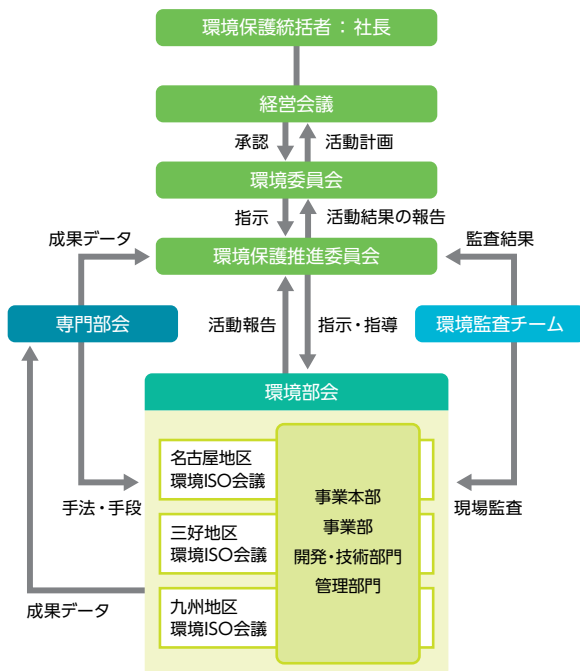
マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの組織体制

社長を環境保護統括者とした環境保護推進体制を構築しています。環境担当役員を委員長とした「環境委員会」では、活動結果に基づいて活動計画を審議し、経営会議で環境保護推進活動の指針を決定します。また、環境保護活動の企画や進捗管理、活動結果の評価を行うため、隔月で「環境保護推進委員会」を開催しています。さらに活動テーマごとの取り組みを効果的に進めるため、各グループ所属の専門家による「専門部会」を設置し、全社を横断した対策を検討しています。

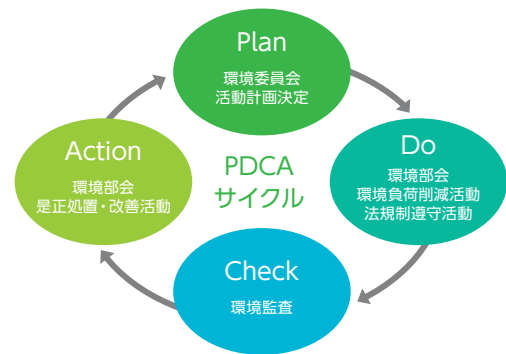
事業所ごとの環境保護活動は、各事業本部または事業部に「環境部会」を設け、具体的な取り組みを企画するとともに進捗を管理しています。また、地域ごとに連携して環境マネジメントシステムを運用するため、「環境ISO会議」を各地区で開催しています。

■ 環境マネジメントの組織・体制



環境マネジメントシステムの運用

環境汚染の予防と環境保護活動を継続的に取り組むため、国際規格ISO14001に基づいて環境マネジメントシステムを構築しています。1997年にノリタケカンパニーリミテド本社が外部審査機関による認証を取得したのを皮切りに、順次認証を取得し、すべての国内生産事業所で認証を取得しました。



■ ISO14001 認証取得事業所（2016年3月取得状況）

● ノリタケカンパニーリミテド（1997年取得 JQA-E-90071）

ノリタケカンパニーリミテド	広島研磨工業
本社	ノリタケリサイクルセンター
三好事業所	ノリタケTCF
神守工場	ノリタケの森
小牧工場	ノリタケ伊勢電子
港工場	大宮事業所・大内山事業所
松阪工場	東濃研磨
夜須工場	ノリタケコーテッドアブレーション
久留米工場	本社・能登工場
伊万里工場	
ゼンノリタケ 本社	

● 共立マテリアル（2001年取得 JSAE 393）

共立マテリアル 本社・本社工場	キヨリックス三重 三重工場
-----------------	---------------

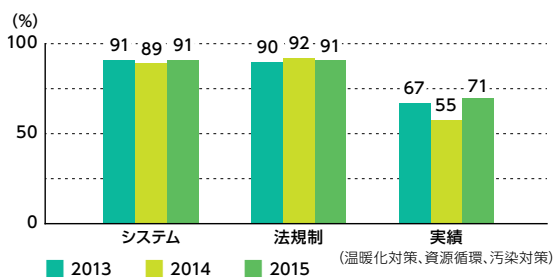
海外工場においても、国内同様に環境マネジメントシステムを構築するため、環境管理体制の強化を進めています。法令など各国の地域性を考慮し、環境監査や関係者への説明会を実施しました。

2015年度環境監査の結果

環境保護活動を適正に推進するため、毎年環境保護推進委員会による環境監査を実施しています。

環境監査では、すべての生産工場に対して、環境活動の実施状況と活動成果を評価しています。特に環境汚染を予防するため、生産工程や施設など現地確認を重点的に実施しています。また、環境監査を実施することで、環境負荷低減活動の問題点や課題の解決を図るとともに、システム自体の改善にも役立てています。

■ 監査項目毎の平均得点率



2015年度の環境監査では、環境マネジメントシステム、法規制管理と中期3ヵ年環境行動計画に対する環境負荷削減活動の実績を評価しました。その結果、環境マネジメントシステム、法規制管理が定められた手順に基づいて運用されていることが確認できました。また、最終年度となる中期3ヵ年活動に基づく環境負荷量の削減実績は、3ヵ年の活動成果が確実に出ていたことも確認できました。

しかし、現地における監査では、新規法令や法改定に対して関係者の認識不足が指摘されました。この結果を受け、2016年度は関係者に対して環境活動の周知や情報伝達を強化します。

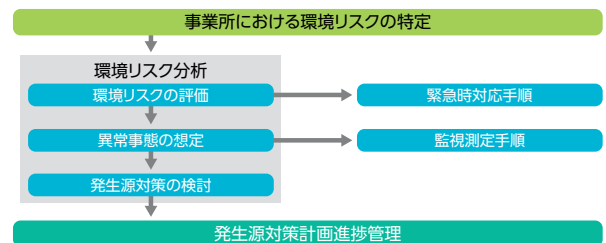


内部環境監査

環境リスク低減の取り組み

環境汚染事故の発生を未然に防止するため、原因となる環境リスクの低減を進めています。ノリタケグループの環境マネジメントシステムでは、環境汚染事故発生時の対応手順を整えるだけでなく、潜在的な環境リスクへの発生源対策を進めています。発生源対策は、優先順位を定め、実施計画を策定しています。

■ 環境リスク低減の概要



法規制遵守・苦情

■ 法規制基準値を逸脱及び苦情の発生

2015年度は、環境関連法規制基準値の逸脱及び苦情はありませんでした。

また、環境に関して監督官庁などから罰金刑以上の処罰および訴訟の提起などありませんでした。

■ 本社工場土壌汚染

土壌汚染対策法に基づく土壌調査を行い、調査結果を名古屋市長へ報告しました。

近隣住民説明、ホームページなどで関係情報を公開しています。調査の結果、基準値を上回る土壌に対して、名古屋市の指導による対策をすべて完了し、土壌汚染の区域指定は解除されました。但し、一部の対象区域についてはモニタリングを継続しています。

■ PCB 含有機器

PCB含有機器に対しては、厳重な保管管理を行い、処理計画に基づき、順次適正処理を進めています。

温暖化対策

温暖化対策活動

ノリタケグループは、温暖化の原因となる温室効果ガスの削減に取り組んでいます。2013年度からはじまった中期3カ年環境行動計画では、温室効果ガスの排出量を2010年度実績から総量で7%、生産量あたりの原単位で5%の削減を目指して活動してきました。温室効果ガスを削減するため、生産設備の効率化などによるエネルギー使用量削減や燃料転換を積極的に進めています。

また、再生可能エネルギーの利用拡大による地球温暖化対策として、国内事業所の敷地を有効活用した太陽光発電設備の設置を進めてきました。

2015年度に三好事業所へ約300kWの太陽光発電設備を導入したことで、2013年からの3カ年に導入した設備の総発電容量が1MWとなりました。



太陽光発電設備（三好事業所）

温暖化対策専門部会の取り組み

温暖化対策に必要な情報を共有し、全社で統一した方針で活動に取り組むため「エネルギー管理企画推進者」と主力工場の「エネルギー管理責任者」が参加する温暖化対策専門部会を設置しています。この温暖化対策専門部会では、全社の温室効果ガス削減活動の進捗状況を確認するとともに温暖化対策の進め方を検討しています。

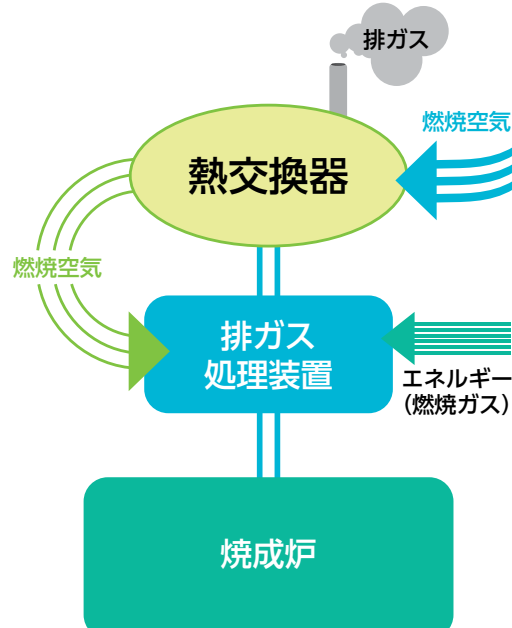
また、グループ内の先進的な取り組みや有効な手段を水平展開するため、主力工場が中心となって取り組み事例の現地見学会や事例集の作成など、全社一体となった削減活動を進めています。

事例①

セラミックス事業部三好工場の取り組み

セラミックス製品の製造には、多くのエネルギーが焼成炉に必要となることから、セラミックス事業部三好工場では、焼成工程における温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

焼成炉からの排ガスをよりクリーンにするため、排ガス処理装置で排ガスを再度燃焼させていましたが、熱交換器を設置し排熱を有効利用することで、年間約70トンの温室効果ガスを削減することができました。



図：排熱回収



排ガス処理装置

事例②

ノリタケ伊勢電子の取り組み

電子部品の製造工程では、徹底した空調管理が必要になるため、空調設備の負荷が増大します。

ノリタケ伊勢電子では、工場改修に合わせ屋根を2重にするカバー工法に加え、下地に断熱材を施工することで、工程内の日射熱の影響を低減させ、空調設備の省エネルギー化を図りました。



屋根改修

事例③

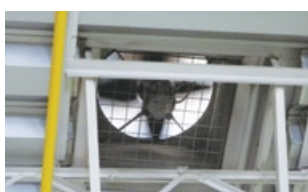
工業機材事業本部三好工場の取り組み

温室効果ガスを削減するには、無駄なエネルギー使用の低減が必要であることから、工業機材事業本部三好工場では、夜間や休日における製造設備の使用状況や作業場所の温度変化など様々な条件を調査、分析して電力使用量の“ムリ、ムダ、ムラ”の削減に努めました。

分析の結果、温度管理に使われていた作業場所のルーファン作動時間や圧縮エアー圧の最適化、コンプレッサーの稼働台数の見直しなどを実施し、職場環境や生産能力に影響することなく年間の温室効果ガス排出量を約43トン低減することができました。



コンプレッサー



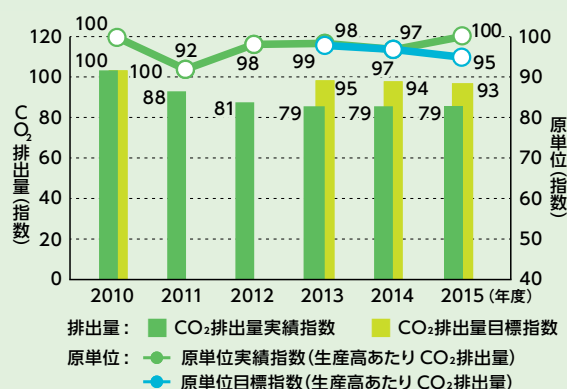
ルーファン

温室効果ガスの排出量実績

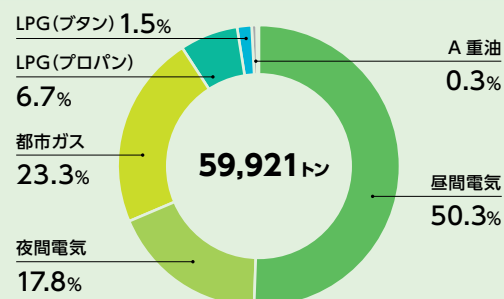
中期3ヵ年環境行動計画の最終年度である2015年度は、空調設備更新による高効率化や工程設備の最適化などの取り組みより2010年度に比べ温室効果ガスが22%削減されましたが、生産量に応じた原単位は前年度から3%増加しました。

生産設備の待機電力のムダ取りなど、効率的なエネルギー使用を進め、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

CO₂排出量実績

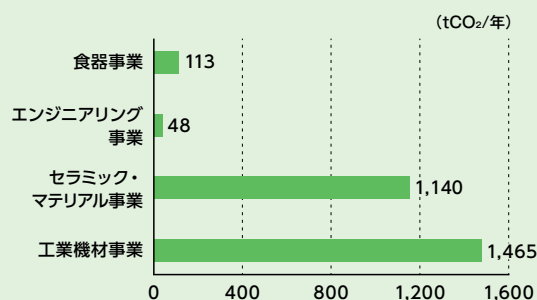


エネルギー種類別 CO₂排出量比率



また、ノリタケカンパニーリミテドでは、効率的な流通を目指すため継続的に物流輸送におけるCO₂排出量を把握しています。2015年度は、1,554万トンキロでCO₂排出量は2,766トンとなりました。

物流輸送による CO₂排出量



資源循環対策

資源循環対策活動

限りある資源を有効利用するには、まず不要物の発生を極力減らすことが重要です。ノリタケグループでは、ものづくり強化活動と連携した歩留まり向上などで事業活動から発生する不要物削減活動に取り組んでいます。

2013年度からの中期3ヵ年計画では、不要物の再資源化による資源循環を促進するため最終埋立処分量を2010年度実績から総量で40%削減、生産量に応じた原単位で3%削減を目指し活動を進めてきました。

主な取り組みとして、これまで埋立処分されていた廃棄物の再資源化を進め、2015年度はリサイクル率78%以上を目指しました。

ノリタケリサイクルセンター

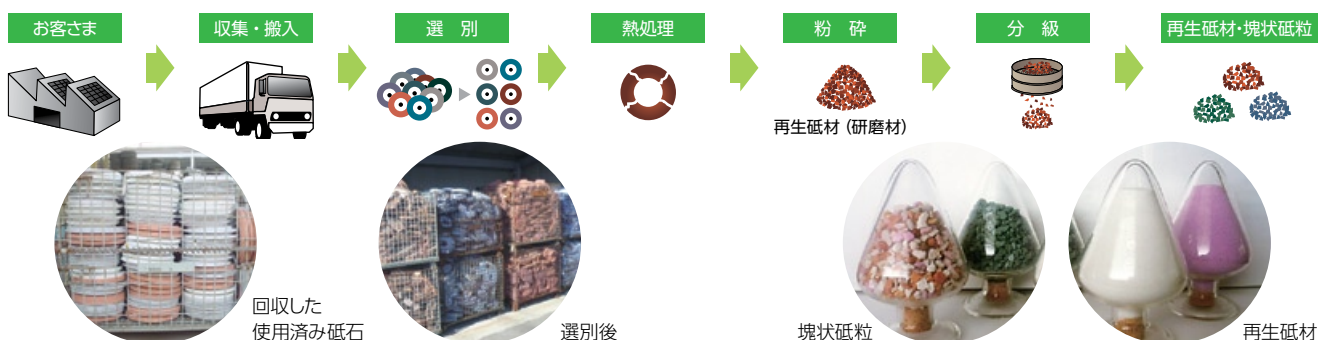
消耗品である研削砥石は、使用後に産業廃棄物として、埋立処分されており、資源を有効利用する上で大きな課題となっていました。

ノリタケリサイクルセンターでは、現在国内約200社のお客さまと産業廃棄物処理委託契約を結び、お客さまで使用したビトリファイド砥石を月あたり約60～70トン回収し再資源化しています。

回収した砥石は、粉碎・分級後、研磨剤や耐火物原料などの製品に生まれ変わります。

今後さらに多くの使用済み砥石を有効利用できるよう、用途開発も積極的に取り組んでいます。

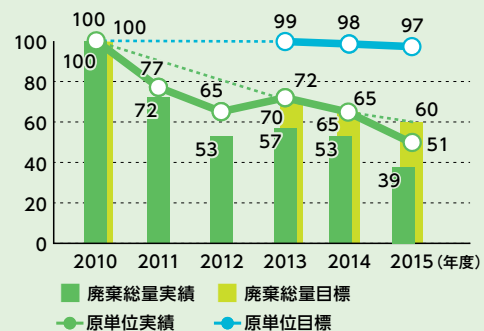
リサイクル工程



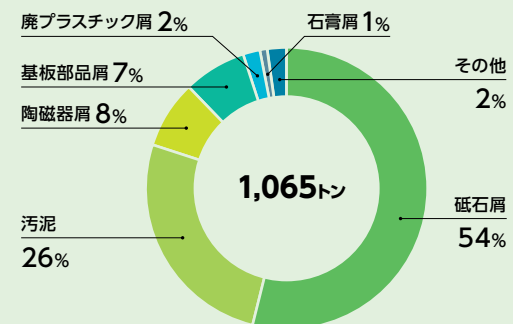
廃棄物排出量実績

中期3ヵ年環境行動計画の最終年度となる2015年度は、歩留まり向上による不要物そのものの発生量を抑制したほか、処分方法の見直しによるリサイクル化を進め、国内最終埋立処分量を2010年度に比べ61%削減しました。また、生産量に応じた原単位においても49%削減することができました。さらに再資源化を推進した結果、発生した不要物全体の82%をリサイクルすることができました。

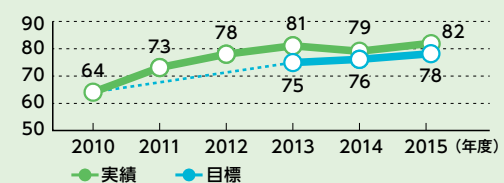
国内埋立処分量・原単位実績の推移



埋立廃棄物の比率



リサイクル率の推移



汚染対策

汚染対策活動

化学物質による環境への汚染リスクを減らすためには、環境に影響のある物質の使用を可能な限り低減するとともに適正に取り扱い飛散や漏えいを予防することが重要です。

2013年度からの中期3ヵ年環境行動計画では、化学物質の管理強化を目指して、化学物質管理システムの運用と汚染予防の管理基準強化を図っています。

汚染対策専門部会

ノリタケグループ全体で統一した化学物質管理の手順や基準を策定するため、汚染対策専門部会を設置しています。

汚染対策専門部会では、事業所・工場で取り扱う化学物質による環境汚染を予防するため「化学物質汚染防止管理標準」を発行し運用しています。

また、ノリタケグループ全社を対象とした化学物質関連法を網羅した化学物質管理システムを構築しています。化学物質管理システムは、有害な化学物質の新規使用を抑制するための審査・承認のルールとPRTR法(※)の仕組みを利用した化学物質の使用量と排出移動量を把握する二つのシステムで構成されています。これによって、化学物質の使用状況を「見える化」し、有害物質の使用と排出量の削減に努めています。

※PRTR法:「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」

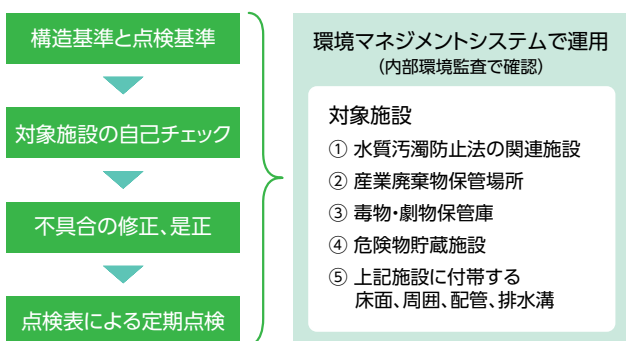
汚染対策の取り組み

「化学物質汚染防止管理標準」に基づいて化学物質の漏洩リスクの高い保管施設や配管などを対象に対策を進めています。水質汚濁防止法に準じ埋設配管の地上化や貯蔵施設の二重化を実施し、化学物質の流出防止を図るとともに定期的な点検や監視装置による監視強化を図っています。

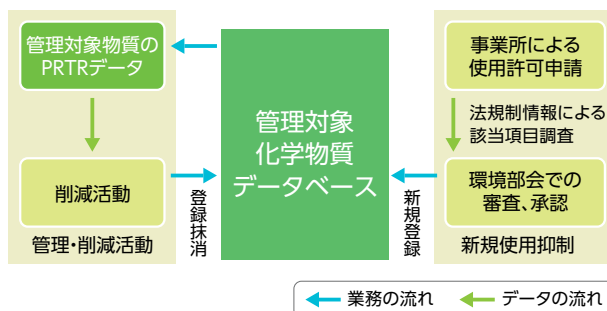


久留米工場貯蔵施設

化学物質汚染防止管理標準



化学物質管理体制

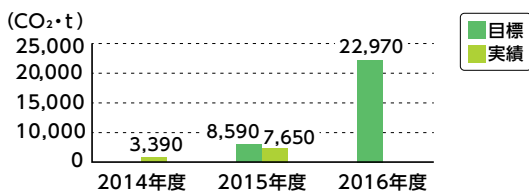


環境保護への取り組み

製品への取り組み

エンジニアリング事業部が製造する乾燥炉、焼成炉、遠心分離機は、材料の調達から製造、使用、使用後に廃棄物として処理されるまでのライフサイクルの中で製品使用時の環境負荷が大半を占めています。環境に配慮した製品設計を行うことで、従来製品に比べ使用時の環境負荷を削減しました。

■ 製品のCO₂削減貢献量 (乾燥機・焼成炉・遠心分離機)



グリーン調達の取り組み

国際的な化学物質規制の強化を受けて、製品中の環境影響物質を排除する「グリーン調達」が拡大しています。有害な化学物質を低減するためには、原材料・部品の調達におけるサプライチェーン全体の化学物質管理が必要になります。

ノリタケカンパニーリミテドでは、サプライヤーに対して「グリーン調達ガイドライン」を発行し、有害な化学物質の使用低減を進めています。

環境社会貢献

「良き企業市民」として、地域の環境保全にも積極的に参加しています。環境社会貢献を目的として国内グループ会社周辺の清掃活動を展開しています。

この取り組みは、社員の自主的な参加によるものですが、社員の環境保全の意識向上のためにも、定期的に呼びかけて開催しています。



清掃活動

環境コミュニケーション

環境活動を効率的に進めるためには、経営者から新入社員まで一人ひとりが環境問題を正しく認識し、環境保護活動への意識を向上させることが重要です。そのため、階層別に環境教育を実施しているほか、環境への取り組みを周知させるため、社内報を通じて環境活動に関する情報を定期的に発信しています。また、法規制など専門的な知識が必要な人材を対象に専門教育を開催しています。

多くのみなさまに、ノリタケグループの環境への考え方を理解してもらうため、「社会・環境報告書」を毎年発行し、ノリタケの森やホームページで公開しています。

また、ノリタケの森では、小学生などを対象とした環境学習の場を提供しています。



内部環境監査教育

生物多様性の取り組み

2010年、名古屋で「生物多様性に関する条約締結国会議」(COP10)が開催され、生物多様性への関心が高まりました。ノリタケグループでは、2011年にノリタケコーテッドアブレーシブ能登工場で「緑化優良工場等中部経済産業局長賞」を受賞したのを皮切りに事業所敷地内における緑化活動を進めており、自然と生態系の保全に努めています。

2015年、地域貢献や環境活動での功績が認められ公益財団法人都市緑化機構が主催する「第3回みどりの社会貢献賞」を本社敷地に隣接する「ノリタケの森」が受賞しました。



ノリタケコーテッドアブレーシブ能登工場



ノリタケの森 (ビオトープ)

環境負荷量

環境負荷全体像(国内)

原料調達から製品使用後の廃棄処分までの製品ライフサイクル全体に関わる環境負荷の全体像を把握することで、より効果的な環境負荷削減に取り組んでいます。

ノリタケでは、国際的な基準であるスコープ3に基づく温室効果ガス排出量を算定し、活動指標として活用しています。

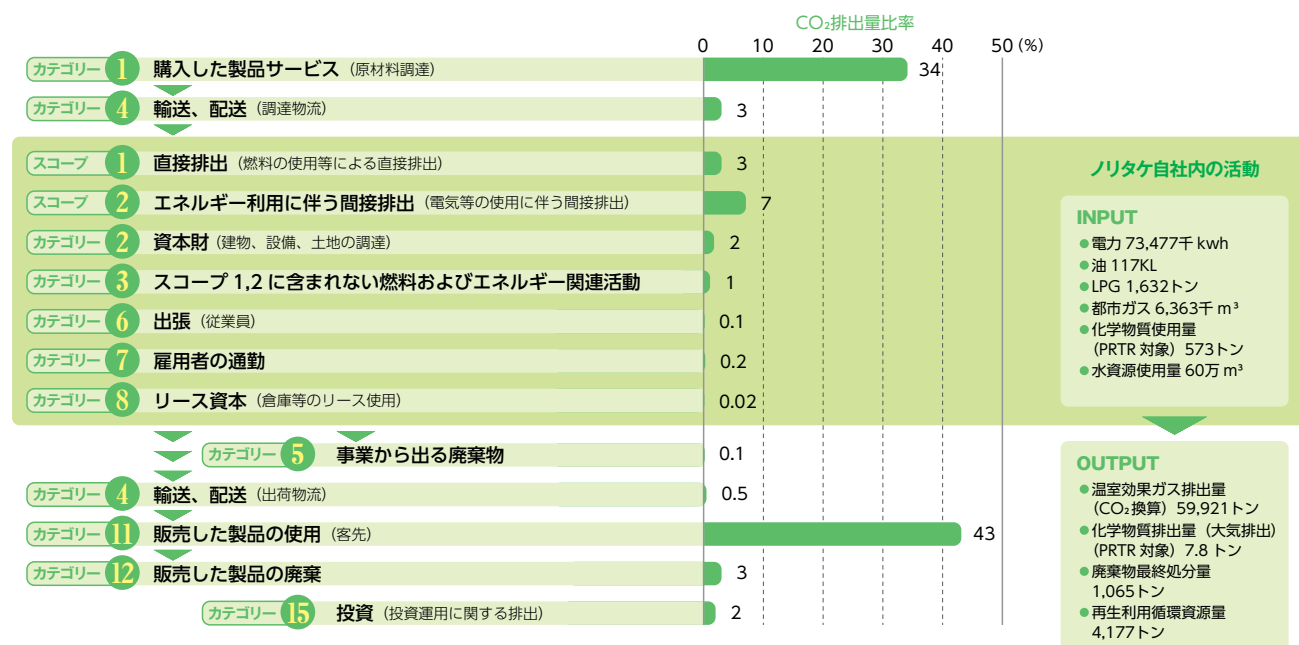
■ サプライチェーン全体の CO₂排出量

(スコープ1~3の合計) **55.4万トン**

スコープ1：企業の直接輩出

スコープ2：エネルギー利用に伴う間接排出
(購入した電気、熱の使用)

スコープ3：その他の間接排出
(カテゴリ 1 ~ 8、11、12、15)

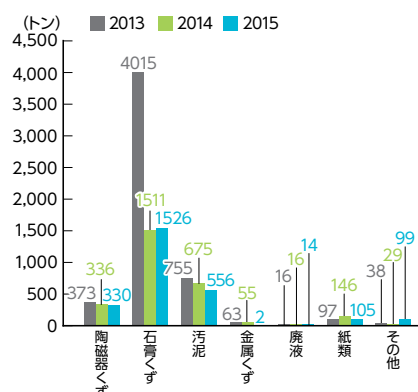


※算定方法について

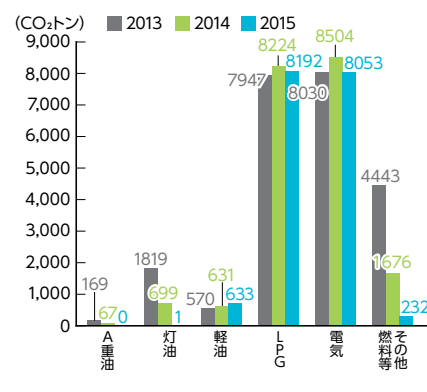
- ・環境省・経済産業省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer2.0」に準拠し算定しました。
- ・スコープ3の15カテゴリーのうち、カテゴリー 9、10、13、14については非該当のため算定から除外しました。

海外事業拠点の取り組み

■ 不要物排出量実績 (種類別)



■ CO₂排出量実績 (燃料別)



ノリタケグループでは、海外での事業拡大に合わせて、海外事業における環境負荷削減に取り組んでいます。海外生産拠点の不要物排出量とエネルギー量を把握し、環境負荷低減を目指します。



環境会計

環境会計（実績と推移）

環境保護活動に対する投資や維持費から最大限の効果が得られるよう、環境会計の仕組みを導入しています。
大分類の下に中分類を設けて、重要課題について個別

に「費用率」や「費用効率」を評価指標として、集計することによって改善活動の項目設定や優先度の決定など、戦略的な環境活動の計画立案に役立てています。

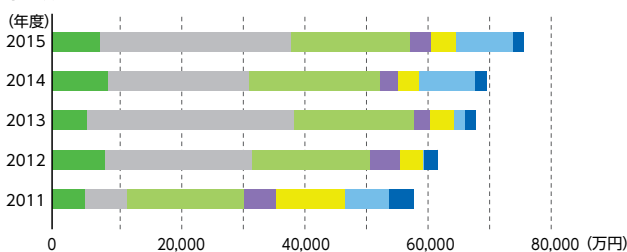
2015 年度環境会計集計結果

単位（万円）

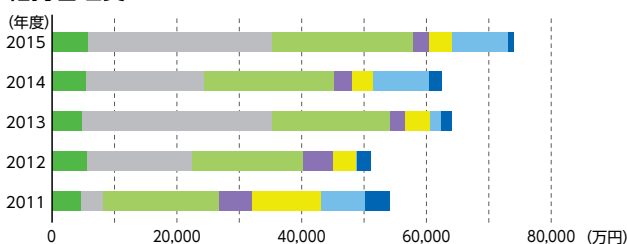
項 目		コスト		効 果	評 価		
大分類	中分類	投資額	維持管理費	経済効果	費用率	分配率	費用効率
公害防止	総額	576	5,677	-155	5.70%	8%	-2%
	大気汚染防止	0	536	117	0.49%	1%	22%
	水質汚濁防止	438	4,868	-291	4.84%	7%	-5%
	騒音防止	0	50	3	0.05%	0%	6%
	悪臭防止	138	222	16	0.33%	0%	4%
環境保全	総額	1,133	30,259	76,659	28.63%	41%	244%
	温暖化防止	1,133	30,200	76,718	28.58%	41%	245%
	温暖化防止以外	0	59	-59	0.05%	0%	-100%
資源循環	総額	0	21,926	-15,793	20.00%	29%	-72%
	資源の効率的利用	0	14,338	-739	13.08%	19%	-5%
	廃棄物の処理	0	5,931	-878	5.41%	8%	-15%
上下流	総額	0	2,693	-340	2.46%	4%	-13%
	グリーン購入	0	0	-24	0.00%	0%	0%
	製品回収	0	2,592	-227	2.36%	3%	-9%
	容器包装回収	0	0	0	0.00%	0%	0%
管理活動		0	3,712	-271	3.39%	5%	-7%
研究開発		0	9,000	0	8.21%	12%	0%
社会活動		0	1,157	815	1.06%	2%	70%
環境損傷		0	0	0	0.00%	0%	0%
総合計		1,709	74,424	60,916	69.44%		80%

環境会計の推移

総額



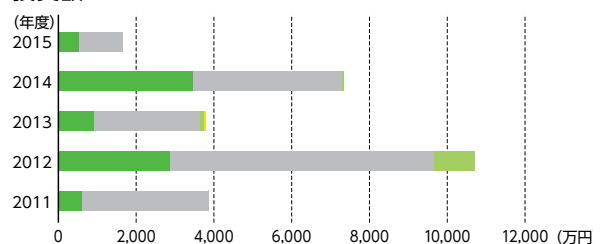
維持管理費



集計方法

- ・環境省ガイドラインを参考に集計
- ・みなし効果へ換算・集計は行わない
- ・減価償却費は計上せず、初期投資のみ計上
- ①費用率：売上高に対する環境コストの割合
- ②分配率：維持管理費の環境負荷毎の配分割合
- ③費用効率：環境コストに対する効果額の割合

投資額



社会・環境報告書 2016 発行によせて



ノリタケの森（ビオトープ）

私の専攻分野の一つ、マーケティング論には、「企業も権利と義務を有する社会的存在すなわち市民であり、良き企業市民であることがその企業の存続と発展を導く」という考え方があり。ノリタケカンパニーリミテドはその好例と言えるだろう。

私見では、社会貢献と環境対策への積極的取り組み、その適切な開示、これら両方がそろっている企業というのは意外に少ない。活動内容はすばらしいがうまくそれを訴求できていなかったり、これと逆に大した活動はしていないのに報告書だけ立派だったりすることが多い。ノリタケカンパニーではこの二つがうまくかみ合い、有効に機能している。

このうち社会・環境に関する実際の活動で特筆すべきは、同社の本社に隣接するノリタケの森である。名古屋駅から徒歩圏内の好立地に歴史的な建造物と広い緑地を保持し、開放している。それだけでも良き企業市民としての存在性は十分証明しているが、季節により印象派の絵のような表情を見せたり、サンタクロースのオブジェによりクリスマスムードを高めたりと、来場者を楽しませる種々の演出が行われている。本稿執筆の直前に訪問した際には、実物大の恐竜模型が置かれ、リアルな動きで子供たちを喜ばせていた。

そして本冊子『社会・環境報告書2016』は、社会貢献と環

境対策に関する対外的開示で重要な役割を果たすものと理解される。ここでは、社会・環境に関する同社の取り組みが第三者から見てもわかりやすい文章と写真により、丁寧かつ的確に訴求されている。しかも毎年同じ内容というわけではなく、たとえば今年度版には、低炭素社会実現への貢献と女性活躍推進法への対応に関する新しい内容が加わっている。

長年、研究と調査に従事している私でも、良き企業市民とはっきり言えるような会社に出会うことは少ない。ノリタケカンパニーという良き企業市民にめぐりあえ、私自身も社会的意義のある研究・調査に向けて意欲を新たにしたい次第である。



金沢大学経済学類教授
白石弘幸

株式会社

ノリタケカンパニー リミテド

〒451-8501

愛知県名古屋市西区則武新町三丁目1番36号

<http://www.noritake.co.jp/>

お問い合わせ先

● 生産技術センター 環境・安全推進グループ

TEL 0561・42・6603 FAX 0561・32・1199

● 広報室

TEL 052・561・7110 FAX 052・561・9721



この報告書の印刷に使用した電力量(400 k Wh)は、自然エネルギーでまかなわれています。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式を採用しています。



石油系溶剤を減らして植物油に置き換えたインクを使用しています。